

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

1 作成年月日・市所管部署

作成年月日	令和 元 年 7 月 11 日
-------	-----------------

市所管部署	石巻市教育委員会生涯学習課
-------	---------------

2 法人名称等

法人名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
法人所在地	石巻市成田字小塚裏畑54
設立年月日	平成 元 年 2 月 22 日
代表者職・氏名	理事長 阿部和夫

設立目的・経過
目的：芸術文化事業を展開することにより、広く芸術文化及び地域社会の発展に寄与する。
経過：H1 法人設立、市民会館・明芳館・友心館を管理受託。H 8 文化センターを管理受託。H 1 6 スポーツ振興財団と統合。H 1 8～H 2 3 市民会館、文化センターの指定管理者。H 2 6～河北総合センター、遊楽館の指定管理者。

3 定款上の事業内容

- (1) 芸術文化活動の普及振興に関する事業
- (2) コミュニティ活動の促進及び支援に関する事業
- (3) 芸術文化活動及びコミュニティ活動の推進を目的とした公共施設での管理運営に関する事業
- (4) その他、目的を達成するために必要な事業
- (5)

4 出資・出捐の状況

資本金・基本財産総額	石巻市出資・出捐額	石巻市出資・出捐割合	市以外の出資・出捐者	市以外の出資・出捐額	市以外の出資・出捐割合
101, 107 千円	100, 000 千円	98.9 %	個人	1, 000 千円	1.0 %
			個人	50 千円	0.0 %
				千円	0.0 %

※出資額が多い順に上位3者（個人は「個人」と表記）を記載

5 役員・職員の状況

(1) 役員

	H28期末	H29期末	H30期末
常勤	1	1	1
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
非常勤	10	10	10
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	2	2	2
計	11	11	11
うち市職員	1	1	1
うち市退職者	3	3	3

(2) 職員

	H28期末	H29期末	H30期末
常勤	27	28	25
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	0	0	1
非常勤	1	1	1
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	1
計	28	29	26
うち市職員	0	0	0
うち市退職者	1	1	2

※市職員（及び市退職者）とは、市の常勤の特別職及び一般職の者（及びそれらの職にあった者）で、法人の役職員に就任している者をいう。

6 経営理念・方針

石巻市にふさわしい芸術文化の振興と心豊かな市民生活の形成による地域社会の発展に寄与する公益財団法人の役割を果たす。

平成25年4月1日に公益財団法人として新たにスタートしたが、これまで以上に公共性・公益性が重視されるとともに、さらなる効率的かつ効果的な法人運営が求められる。このような状況下、各種事業を継続的・安定的に展開できるよう常に検討を行いながら、地域や各関係機関との連携をも深め、質の高いサービスの提供に努める。

第三セクター情報公開シート I (PDCAサイクルシート)

7 中期的な経営目標・事業計画

目標項目・指標	単位		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度期	令和3年度期
事業実施にかかる総集客数	人	目標計画	7,000	7,500	6,500	7,000	8,000
		実績	7,956	6,057			
目標・指標の説明		主たる目的である芸術文化の普及振興状況を図る一つ的手段として集客数を掲げるが、目的の達成度合いを人数や件数のみで読み取るとは困難であり、実施に至るまでの経過や実施目的及び内容が最も重要視されるべきと考える。					
目標未達の場合の要因分析		平成30年度が目標未達であるのは、事業規模の大小によって年度ごとの実績に変動が生じるためであり、前期との事業内容の違いによる集客率の変更が要因である。より多くのニーズに応えるための幅広い事業展開が必要であるが、施設の設備上の問題から希望の公演の実施に至らないケースが増え、好意的に被災地で実施してくれる公演が減少傾向にあると実感する。なお、前期と比較し特に減少しているのは支援事業の回数及び集客であり、この結果は当然のことと考える。					

8 主要事業の成果、課題

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
芸術文化の普及振興事業	指定管理施設及び学校等を活用し、要望に応じた公演を各所で実施した。	大ホールの補完策として、アリーナ等を活用した事業の企画運営を実施し、公演事業の多様化を図ることができた。震災以前の事業構成に近づく公演の実施が可能となった。	指定管理施設等を活用した事業を効率よく実施し、他地域の文化施設及び企画事務所等との連携により多様な公演事業を提供し、芸術文化の普及振興を図ることができた。
事業の公共性、公益性	芸術文化活動の普及振興を図ることを目的に実施するものであり、鑑賞や体験を通じて広く芸術文化の発展に寄与するものである。		

事業名称	前期の事業成果	自己評価・事業課題	前々期の課題への取組成果
震災復興支援並びにコミュニティ活動の促進及び支援事業	市民との連携事業及び仮設住宅の集会所等における出前公演を開催し、被災された方をはじめ幅広い層に対し、芸術文化事業の鑑賞機会を提供することができた。	芸術文化活動を通じ被災者への復興支援に努めた。仮設住宅から復興住宅等での出前公演にシフトすべきだが、要望等の情報収集を適切に行った上で実施すべきと考える。	優れた公演を地域住民の要望を取り入れて実施したことにより、鑑賞者からの評価を得ることができた。
事業の公共性、公益性	芸術文化活動の普及振興を図る目的と併せ、当財団が実施する芸術文化活動を通じ、震災からの復興支援を行い、ひいては地域のコミュニティ活動の活性化を図るきっかけづくりに寄与するものである。		

9 市が期待する役割、市意見等 (担当部署記載)

※各情報公開シートの個別項目毎及び決算全体の所感について、別紙様式に記載ください。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

団体名称	公益財団法人石巻市芸術文化振興財団
------	-------------------

1 財務諸表（金額単位：千円）

貸借対照表（B/S）	借方（科目）	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
	流動資産	78,437	81,216	2,779	91,008	9,792
うち 現金・預金	76,196	80,575	4,379	90,809	10,234	
固定資産	139,726	143,695	3,969	132,037	▲ 11,658	
(1) 基本財産	101,091	101,099	8	101,107	8	
(2) 特定資産	36,575	39,935	3,360	29,088	▲ 10,847	
(3) その他の固定資産	2,060	2,661	601	1,842	▲ 819	
資産の合計	218,163	224,911	6,748	223,045	▲ 1,866	
貸方（科目）	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減	
流動負債	22,858	19,022	▲ 3,836	21,531	2,509	
うち 短期借入金	0	0	0	0	0	
固定負債	18,575	19,935	1,360	19,038	▲ 897	
うち 長期借入金	0	0	0	0	0	
負債合計	41,433	38,957	▲ 2,476	40,569	1,612	
正味財産	176,730	185,954	9,224	182,476	▲ 3,478	
指定正味財産	101,091	101,099	8	101,107	8	
うち 基本財産への充当額	101,091	101,099	8	101,107	8	
うち 特定資産への充当額	0	0	0	0	0	
一般正味財産	75,639	84,855	9,216	81,369	▲ 3,486	
うち 基本財産への充当額	0	0	0	0	0	
うち 特定資産への充当額	18,000	20,000	2,000	10,049	▲ 9,951	
負債・正味財産の合計	218,163	224,911	6,748	223,045	▲ 1,866	

正味財産増減計算書	科目	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
	一般正味財産増減の部	11,504	9,216	▲ 2,288	▲ 3,486	▲ 12,702
経常増減の部	11,504	9,216	▲ 2,288	▲ 3,486	▲ 12,702	
経常収益	266,564	253,696	▲ 12,868	250,408	▲ 3,288	
経常費用	254,988	244,408	▲ 10,580	253,822	9,414	
評価損益等計（法人税）	▲ 72	▲ 72	0	▲ 72	0	
経常外増減の部	0	0	0	0	0	
経常外収益	0	0	0	0	0	
経常外費用	0	0	0	0	0	
一般正味財産期首残高	64,135	75,639	11,504	84,855	9,216	
一般正味財産期末残高	75,639	84,855	9,216	81,369	▲ 3,486	
指定正味財産増減の部	8	8	0	8	0	
指定正味財産増減額	8	8	0	8	0	
指定正味財産期首残高	101,083	101,091	8	101,099	8	
指定正味財産期末残高	101,091	101,099	8	101,107	8	
正味財産期末残高	176,730	185,954	9,224	182,476	▲ 3,478	

（※）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。
 ※財務諸表を添付すること。

第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）

区分	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減	
キャッシュ・フロー計算書（C/S）	事業活動によるキャッシュ・フロー	13,079	12,137	▲ 942	▲ 3,305	▲ 15,442
	事業活動収入計	264,455	253,278	▲ 11,177	248,175	▲ 5,103
	事業活動支出計	▲ 251,376	▲ 241,141	10,235	▲ 251,480	▲ 10,339
				0		0
				0		0
				0		0
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,448	▲ 5,523	▲ 2,075	10,588	16,111
	投資活動収入計	2,282	417	▲ 1,865	12,184	11,767
	投資活動支出計	▲ 5,730	▲ 5,940	▲ 210	▲ 1,596	4,344
				0		0
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	0	0	
財務活動支出計	0	0	0	0	0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
現金及び現金同等物に係る換算差額			0		0	
現金及び現金同等物の増減額	9,631	6,614	▲ 3,017	7,283	669	
現金及び現金同等物期首残高	45,949	55,580	9,631	62,194	6,614	
現金及び現金同等物期末残高	55,580	62,194	6,614	69,477	7,283	

（※1）支出は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

（※2）負の数の場合は、マイナス記号（-）を付けて入力すること。

2 市による財政・金融支援等（金額単位：千円）

区分	平成28年度期	平成29年度期	前期増減	平成30年度期	前期増減
補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
事業費補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
管理費補助金（交付金・助成金・負担金）	0	0	0	0	0
委託料及び指定管理料	239,182	232,096	▲ 7,086	224,704	▲ 7,392
借入金（期末残高）	0	0	0	0	0
短期借入金	0	0	0	0	0
長期借入金	0	0	0	0	0
出資・出捐（期末時）	0	0	0	0	0
債務保証額（期末残高）	0	0	0	0	0
損失補償額（期末残高）	0	0	0	0	0
その他の財政支援・優遇措置（税、使用料、手数料の減免等）	0	0	0	0	0
			0		0
			0		0

※行については、適宜、追加・削除、区分修正可。ただし、設定した計算式に影響を与えないこと。

※財務諸表を添付すること。

情報公開シートⅡ補足資料

法人名：公益財団法人石巻市芸術文化振興財団

1 貸借対照表に関する補足

(1) 総括分析

資産総額は前年比1,866千円減の223,045千円である。正味財産は総体で前年比3,478千円減の182,476千円となっているが、これは財団設立30周年記念事業を実施するための資金を一般正味財産内より取崩したことによるものである。このことは計画的に行われた取崩しであることから、当該年度も健全な経営状況を維持しているといえる。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
流動資産	前年比9,792千円の増額	芸術文化事業における人気事業の実施により、入場料収入が増額したこと等による。
流動負債	前年比2,509千円の増額	芸術文化事業における大規模事業の実施により、経費が増額したこと等による。
一般正味財産	前年比3,486千円の減額	芸術文化事業における記念事業の実施のため、積立金を取崩し支出したこと等による。

2 損益計算書又は正味財産増減計算書に関する補足

(1) 総括分析

経常収益は、前年比3,288千円減額の250,408千円であり、その主な要因は、指定管理事業収益の減額（▲4,549千円）、芸術文化事業の入場料収益の増額（財団設立30周年記念事業の開催 2,829千円）によるものである。

経常費用は、前年比9,414千円増額の253,822千円であり、その主な要因は、芸術文化事業における記念事業の実施により、前年と比較し公演が大規模となったため、公演料等（委託費6,630千円、印刷製本費995千円など）が増額したこと等による。

その結果、当期利益は前年と比較し減額となったが、これは財団設立30周年記念事業を実施したためであり、その資金には積立資産（9,951千円）を充てている。

(2) 前年度から数値が変動した科目及びその要因

項目	変動内容	変動要因
経常収益	前年比3,288千円の減額	指定管理事業収益の減額（▲4,549千円）、芸術文化事業の入場料収益の増額（2,829千円）によるものである。芸術文化事業においては、記念事業の実施により前年度との差が生じた。
経常費用	前年比9,414千円の増額	芸術文化事業における記念事業の実施により、前年と比較し公演が大規模となったため、公演料等（委託費6,630千円、印刷製本費995千円など）を増額したこと等による。
一般正味財産期末残高	前年比3,486千円の減額	芸術文化事業における記念事業を実施したことによる減額であるが、その資金は一般正味財産内の積立資産（9,951千円）を充てている。

3 キャッシュフロー計算書に関する補足

(1) 総括分析

事業活動収入については、指定管理事業収入の減額、芸術文化事業の入場料収入の増額等により、前年比5,103千円減の248,175千円となった。事業活動支出については、芸術文化事業において財団設立30周年記念事業を実施し、前年と比較し公演規模が拡大したため、委託費（公演契約料）等が増額した。これにより、支出総体としては前年比10,339千円増の251,480千円であった。

投資活動収入においては、退職給付引当資産取崩収入（2,233千円）及び積立資産取崩収入（9,951千円）により、前年比11,767千円増額の12,184千円であった。投資活動支出は、退職給付引当資産取得支出1,337千円、固定資産取得支出259千円を計上し、前年比4,344千円減の1,596千円であった。

利益としては7,283千円（現金及び現金同等物期末残高）を計上している。

(2) 数値が変動した区分及びその要因

項目	変動内容	変動要因
事業活動	前年比15,442千円の減額	事業活動収入は、指定管理事業収入の減額（▲4,549千円）、芸術文化事業の入場料収入の増額（2,829千円）等による。事業活動支出については、芸術文化事業において記念事業を実施し、前年と比較し公演規模が拡大したため、委託費（公演契約料）等が増額した。これにより、支出総体としては前年比10,339千円増の251,480千円であった。収支差額は、前年比15,442千円減額の▲3,305千円であった。
投資活動	前年比16,111千円の増額	投資活動収入においては、退職給付引当資産取崩収入（2,233千円）及び積立資産取崩収入（9,951千円）であった。投資活動支出は、退職給付引当資産取得支出1,337千円、固定資産取得支出259千円を計上し、前年比4,344千円減の1,596千円であった。収支差額は、前年比16,111千円増額の10,588千円であった。
現金等の増減額	前年比669千円の増額	記念事業の資金を積立資産より充てており、それ以外の収支に関しては利益を計上している。

4 市による財政・金融支援等に関する補足

(1) 市からの補助金等の交付状況

補助金等の名称	補助金額(単位：円)	補助金の使途

(2) 市からの委託業務等（指定管理含む）の状況

委託業務の名称	委託料(単位：円)	委託業務の内容
震災復興文化芸術事業業務	14,040,000	震災復興文化芸術事業業務
河北総合センター管理運営業務、多目的ふれあい交流施設管理運営業務	185,280,000	指定管理業務
ささえあい拠点センター管理運営業務	25,384,439	ささえあい拠点センター管理運営業務

(3) 税、使用料、手数料等の減免の状況

減免されている税目等名称	減免額(単位：円)	減免理由

市が期待する役割、市意見等（別紙）

法人名：公益財団法人石巻市芸術文化振興財団

担当部署名：教育委員会生涯学習課

1 第三セクター情報公開シートⅠ（PDCAサイクルシート）に対する意見

（1）中間的な経営目的・事業計画

平成26年度期より河北総合センターおよび遊楽館の指定管理者として、芸術文化の普及振興に関する事業を展開している。平成30年度は目標未達成で、前期を下回る結果となったが、事業規模の大小によって年度ごとの実績に変動が生じるのはやむを得ないことであり、復興期間が終了間近で支援事業の減少が予想されることから、より多くのニーズに応えるための幅広い事業展開が必要と考えられる。

（2）主要事業の成果、課題

指定管理者として施設の管理運営を実施するとともに、管理施設の状況を把握し適切な芸術文化事業を企画・運営し、効率よく展開できたこと、また、管理施設に留まらず、学校等を活用した事業を実施することで、芸術文化活動の普及振興に寄与しているといえる。

また、復興支援事業については、仮設住宅から復興住宅等へ居住地の変化や、支援の先細りが生じるものと予想されるので、継続性を図りつつも市民の要望等の情報収集を行い、柔軟に対応することが望ましいと考えられる。

2 第三セクター情報公開シートⅡ（財務諸表等）に対する意見

（1）貸借対照表

平成26年度期より河北総合センターおよび遊楽館の指定管理事業を実施したことにより、震災後は不安定であった経営方針が定まったことで、平成30年度期は前年度に比べ正味財産が減額しているが、この減額は、財団設立30周年記念事業実施のため、一般正味財産内での取り崩しによるものであることから、当該年度も健全な経営状況を維持しているものと判断する。

(2) 損益計算書又は正味財産増減計算書

平成30年度期においては、財団設立30周年で記念事業を実施したことにより、委託費等の支出が増額したが、震災以前からの指定管理業務の経験を活かし、効率のよい運営が図られた。その結果、施設管理コストの削減等による費用の減額から利益が生じ、良好な経営状況と判断する。

(3) キャッシュフロー計算書

平成30年度は、財団設立30周年で記念事業を実施したことにより、委託費等が増額したが、芸術文化事業の入場料収入の増や施設管理コストの削減により利益が生じていることから、適正な管理状況にあると考えるので、今後とも安定した経営を期待する。

(4) 市による財政・金融支援等

特になし。

3 法人に対し市が期待する役割等(担当部署所感)

平成元年の設立以来一貫して芸術文化の振興を担い、公共施設の指定管理等を通して、効率的、安定的な運営に取り組んでいる法人であるが、東日本大震災以降の厳しい経営状況の中、内部留保の充当や職員の給与削減等による努力に加え、仮設住宅集会所の管理および舞台管理等の受託業務を実施し、平成25年度期は良好な経営状況に回復した。平成26年度期からは河北総合センターと遊楽館の指定管理業務の効率的な運営により利益が生じており、今後とも安定した経営状況が維持されることを期待する。

また、復興支援事業については、仮設住宅から復興住宅等へ居住地の変化や、支援の先細りが生じるものと予想されるので、継続性を図りつつも市民の要望等の情報収集を行い、柔軟な対応を期待する。